

木遣り ― 御柱木遣り伝承保存

御柱祭では、木遣りが御柱を曳くための合図となる。この木遣りのことを「曳行の木遣り」と言い、大勢の氏子の心をひとつにし御柱を動かすのだ。また、木遣りには、神主が祝詞を上げるような節回しが特徴の木遣りがある。曳行開始前に山の神様をお迎えする際に唄う「綱渡りの木遣り」。御柱を曳きつけた後、山の神様をお送りする際に唄う「神返しの木遣り」がある。先人達の木遣り師たちが節回しを習い、厳しい練習を積んで今日まで受け継がれてきた。

● 曳行の木遣り

- ・山の神様 お願いだ
- ・諏訪の御柱 お願いだ
- ・協力一致でお願いだ
- ・氏子の皆様 お願いだ
- ・力を合わせてお願いだ
- ・心をひとつにお願いだ
- ・皆様ご無事でお願いだ
- ・ここは木落とし お願いだ

曳行中、場所や状況に応じて唄われる。

● 綱渡りの木遣り

奥山の大木 里に下りて神となる ヨーイサ

山の神様をお迎えする唄。御柱祭そのものを表している。

伊勢神明 天照皇大神宮 八幡大菩薩 春日大明神
山の神が先達で 花の都へ曳きつける ヨーイサ

日本の三つの大きな神様、天照皇大神宮、八幡大菩薩、春日大明神に御柱祭の始まりをお告げし、山の神様の先導で里へ曳きつける。

● 神返しの木遣り

恋に焦がれし 花の都へ曳きつけ 山の神これまで
ご苦労だ 元の社へ 返社なせ ヨーイサ

御柱を無事に諏訪大社に曳きつけました。ご苦労様でした。
おなごり惜しいです。元の社（奥山）にお帰り下さい。

氏子の皆様 長の道中 ご苦労だ
無事に曳きつけ 万々歳 ヨーイサ

氏子の皆様、長い道道中ご苦労様でした。御柱を無事に曳きつけ、万々歳です。



【諏訪大社下社へのアクセス】

岡谷I.C.より車で諏訪大社下社 春宮・秋宮まで約10分
It is about ten minutes by car from the Okaya I.C. to the Suwa great shrine.

中央本線下諏訪駅より秋宮まで徒歩約10分、春宮まで徒歩約15分
It is about ten minutes by walk from Shimosuwa Sta. to the Suwa great shrine.



諏訪大社 下社春宮

Suwa Great Shrine, Shimosha HARUMIYA
長野県諏訪郡下諏訪町193 〒393-0092
193 Shimosuwa-Town Suwa-County 393-0092 Nagano
Phone.0266-27-8316



諏訪大社 下社秋宮

Suwa Great Shrine, Shimosha AKIMIYA
長野県諏訪郡下諏訪町5828 〒393-0052
5828 Shimosuwa-Town Suwa-County 393-0052 Nagano
Phone.0266-27-8035

下諏訪町木遣保存会

下諏訪町無形文化財（諏訪大社下社の御柱木遣り）



元気づくり支援金は地域づくりを応援します

Design and illustration: Kato Kentaro

信濃國一之宮諏訪大社下社

御柱街道マップ

発行 下諏訪町木遣保存会

御柱祭 ― 七年一度の天下の大祭

正式には「諏訪大社式年造営御柱大祭」。7年1度、寅と申の年に行われる諏訪大社のお祭である。社殿の造営（現在は宝殿のみ）と「御柱」と呼ばれる直径約1m、長さ約17m、重さ約10tにもなる巨木（樫の木）を山から切り出し、人力で山から里へと曳き、最後に上社・下社の各社殿の四隅に建てる。最古の記録に平安時代の桓武天皇の御代から、信濃国一国をあげて奉仕がなされ盛大に行われたとあるが、起源は更にさかのぼるとも言われている。

御柱に奉仕する氏子の役割

元綱衆【もとづなしゅう】

御柱に繋がれた男綱、女綱を巧みに操り、進行方向を決め曳行を楽にする。

梃子衆【てこしゅう】

固い雑木で作った長さ2メートルの梃子棒を持ち、御柱の両脇につき方向転換等に力を発揮する。

追掛衆【おいかけしゅう】

御柱後方についている追掛綱を御柱がぶれずに進むように操る役目がある。

斧取り衆【よきとりしゅう】

木落としの際、御柱を落とすため張られた追掛綱を切る役目。また、冠落しの際、御柱の先端を三角錐の形に化粧する。

木遣り衆【きやりしゅう】

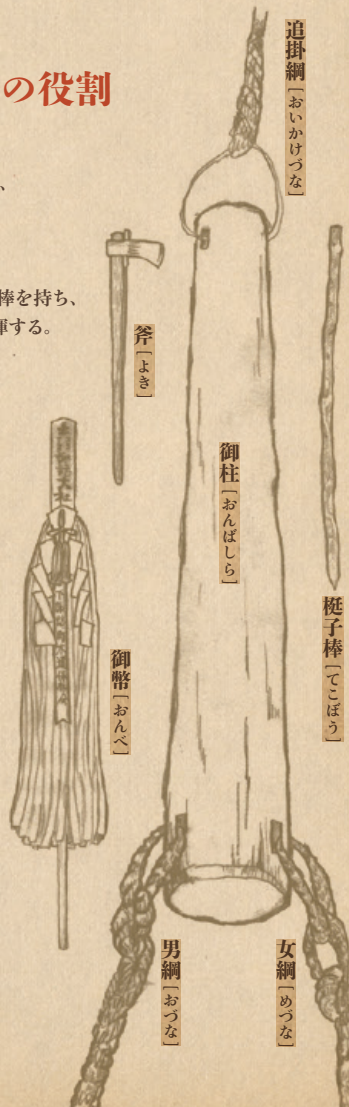
御柱曳行にはなくてはならない木遣り。一斉に曳かせるための合図となる。



斧取り・元綱・梃子・追掛衆衣装



木遣り衆衣装



斧【よき】

御柱【おんばしら】

梃子棒【てこぼう】

男綱【おつな】

女綱【めつな】

山出し

御柱祭山出し曳行開始地点。木遣りの一声で氏子が心を一つに曳行開始する。

御柱の曳行を一旦止め、斧取り衆は道具を清め、斧を三回御柱に入れ、化粧直しをする。

奥山の大木 里に下りて 神となる

昔は道がクランク状になっており、木落し坂同様に難所だった。現在では、いかにこの大曲を一気に通り抜けられるかが見せ場になっており、元綱・梶子・追掛衆の技が試される。

また、大きいカーブのため全体が見渡せない、木遣り師たちは一斉に綱を曳かせるために息を合わせ唄う姿も見所だ。

諏訪高島藩の新田開発によりできた集落で、諏訪地方の製糸業発祥の地。製糸工女の墓があり、今でも弔っている。信濃三葉師の一つである萩倉葉師や米守神社が村の中心にある。

山出し最大の難所。危険を伴うため、一瞬の隙も許されない。氏子たちの顔つきも緊張感に包まれる。そして木遣りの一声で追掛綱が斧取衆によつて切られ、一気に曳き落とされる。「男見るなら七年一度の木落し、坂落し」

山出し最終地点。柱を曳きつけた後「山の神返しの木遣り」が唄われ、この唄で涙する氏子も多い。山出し翌日には、「注連掛祭」が行われ、御柱の四方に白樺（しらはり）の木を立て注連縄で囲む。

六 注連掛
〔しめかけ〕

里曳き開始地点。山出しから約一ヶ月間安置されていた御柱は、曳行開始すぐにこの丘から一気に柱が曳き落とされる。

境内東側の急斜面の上、国道142号と旧中山道が交わる三又路付近を指す。境内東側の急斜面で木落しが行われる。木落し坂とは違い狭い箇所での木落し、細心の注意を払う。

境内に曳きつけられた春一々春四の柱は「冠落しの神事」が行われ、柱の先端を三角錐の形に化粧直しする。その後、「建御柱」が行われる。建御柱は「建方（たてかた）」と呼ばれる人たちが中心となり行う。秋一々秋四の柱は境内を抜け秋宮を目指す。

御柱祭もいよいよ千秋楽。秋一々秋四の柱は秋宮境内へ曳きつけられ「冠落し」「建御柱」が行われる。

里曳きは山出しとは一転、華やかな雰囲気に包まれる。国道20号線で行われる神賑わい「騎馬行列」や「長持ち」などによるパレードは必見である。

